

広報かねやま

KANEYAMA

December
2025
No.756
12

特集

かね

自然や生き物が好きだ
だから聞く「共生」とは何か



【特集】

守人

りまゆうかい
獣友会は明治43年、帝国在郷軍人
かいといふ陸軍の外郭団体が、軍への

毛皮を安定供給するために地元の狩

獵者を取りまとめたことに始まる。

その後、大日本聯合獣友會が設立
され、戦後は大日本獣友會と名称を

変え、狩獵者の道徳心の向上や狩獵
の適正化を目標に活動を行つた。

現在、獣友会は大日本獣友會、都
道府県獣友会、支部獣友會の三層
構造となり私たちのくらしを守り続
けていく。

町内のクマ目撃情報

※令和7年4月1日から10月末時点

5月23日	4時	飛森地区	クマ1頭目撃
6月 2日	8時	有屋地域	クマ1頭目撃
6月 6日	5時	飛森地区	クマ1頭目撃
6月 6日	10時	荒屋地区	クマ1頭目撃
6月23日	5時	飛森地区	クマ1頭目撃
6月30日	17時	横沢地内	クマ1頭目撃
7月12日	10時	朴山地区	クマ1頭目撃
7月13日	8時	荒屋地区	クマ1頭目撃
7月13日	10時	荒屋地区	クマ1頭目撃
7月13日	10時	荒屋地区	クマ2頭目撃
7月14日	19時	七日町地区	クマ1頭目撃
7月20日	5時	十日町地区	クマ1頭目撃
7月23日	5時	内町地区	クマ1頭目撃
7月27日	6時	上河原地内	クマ1頭目撃
7月27日	7時	内町地区	クマ1頭目撃
7月27日	7時	魚清水地区	クマ1頭目撃
7月27日	15時	下野明地区	クマ1頭目撃
7月28日	16時	有屋地域	クマ1頭目撃
7月29日	19時	朴山地区	クマ1頭目撃
7月31日	15時	飛森地区	クマ1頭目撃
8月 2日	7時	有屋地域	クマ1頭目撃
8月 2日	12時	漆野地区	クマ1頭目撃
8月 4日	5時	有屋地域	クマ1頭目撃
8月 4日	5時	下向地区	クマ2頭目撃
8月 4日	15時	宮地区	クマ1頭目撃
8月 5日	14時	樫台地区	クマ1頭目撃
8月 5日	19時	魚清水地区	クマ1頭目撃
8月13日	12時	上台地区	クマ1頭目撃
8月13日	18時	飛森地区	クマ1頭目撃
8月16日	5時	三枝地区	クマ1頭目撃
8月22日	16時	横沢地内	クマ1頭目撃
8月22日	18時	有屋地域	クマ1頭目撃
9月 4日	13時	横沢地内	クマ1頭目撃
9月 9日	17時	小蟻地区	クマ1頭目撃
9月 8日	7時	片貝地区	クマ2頭目撃
9月10日	5時	片貝地区	クマ3頭目撃
9月10日	7時	中田地区	クマ1頭目撃
9月10日	11時	稻沢地区	クマ1頭目撃
9月10日	16時	小蟻地区	クマ1頭目撃
9月12日	17時	朴山地区	クマ1頭目撃
9月17日	6時	下向地区	クマ1頭目撃
9月19日	5時	樫台地区	クマ3頭目撃
9月22日	18時	有屋地域	クマ1頭目撃
9月26日	7時	山崎地区	クマ1頭目撃
10月 1日	7時	下向地区	クマ1頭目撃
10月 1日	10時	有屋地域	クマ1頭目撃
10月 1日	18時	稻沢地区	クマ1頭目撃
10月 2日	18時	片貝地区	クマ1頭目撃
10月 7日	5時	有屋地域	クマ2頭目撃
10月 7日	6時	飛森地区	クマ1頭目撃
10月 7日	15時	下向地区	クマ2頭目撃
10月 8日	18時	片貝地区	クマ2頭目撃
10月 9日	6時	七日町地区	クマ3頭目撃
10月 9日	15時	山崎地区	クマ1頭目撃
10月10日	17時	松ノ木地内	クマ1頭目撃
10月11日	5時	松ノ木地内	クマ1頭目撃
10月11日	9時	樫台地区	クマ1頭目撃
10月14日	6時	上台地区	クマ1頭目撃
10月14日	7時	上台地区	クマ1頭目撃
10月16日	15時	柳原地区	クマ1頭目撃
10月17日	10時	荒屋地区	クマ2頭目撃
10月17日	15時	蒲沢地区	クマ3頭目撃
10月21日	16時	荒屋地区	クマ2頭目撃
10月29日	9時	魚清水地区	クマ1頭目撃

里山の守人たち

もりびと

獣友会の目的と役割・現状

身近に迫る野生動物

私たちの安全は誰が守る?

町民一人ひとりの手の中にあります。安心して暮らせる里山を残すために今、私たちに何ができるのでしょうか。

特に今年は、野生動物による農作物被害や自衛隊の出動要請に至るほどの全国的な人的被害に恐怖を感じた方も多いのではないでしょうか。

クマをはじめとする鳥獣被害が増えている背景には、複数の要因が複雑に絡み合っています。例え

ば、気候の変動や山林の餌不足により、野生動物が餌を求めて人里へ下りやすくなっています。さらに入口減少や担い手不足により里山の管理が行き届かず、藪が広がり生活圏との境界が曇昧になってしまっていることも要因です。

特に河川沿いの藪を伝ってクマが移動し、住宅街やその近くの道路に出没する事例が多く見られます。

こうした緊迫した状況から地域の安全を守るために、人知れず最前線で活動しているのが、「獣友会」です。しかし、その活動の認知度は決して高くなく、理解不足による誤解や偏見、そして多くの課題に直面しています。これらの課題を克服するためには、私たちが獣友会に対する正しい知識と理解を深め、連携を強化し、野生動物との関わり方を考える姿勢が求められています。被害を減らす力は、



①今年度は10月末までに100基以上の箱罠を設置。箱罠の重さは60~80kg程度。箱罠の設置には最低4名が必要なところ、人員不足により2名で設置する事もある
②緊急時には新庄警察署金山駐在所も出動し、獣友会と協力してパトロールや注意喚起を行う
③クマ対策本部会議には獣友会をはじめ最上総合支庁や新庄警察署金山駐在所が出席
④イノシシ用のくくり罠は、地形や植生を活かして獣に気付かれないように設置。ただし、人が誤って接近しないよう、標識や目印を見やすい位置に設置する
⑤特に見通しが悪く、獣道となっている場所や扇や掘り返し痕が見られる場所に罠を設置
⑥町民の皆さんとの依頼に応じ、箱罠を設置する獣友会



①ツキノワグマの爪は木登りや引き裂きに適した鋭い形状。前足の爪は3~6cmにも及びます
②箱罠で捕らえられたツキノワグマの成獣
③杉沢地内で確認された大型のツキノワグマ

「狩猟」と「有害鳥獣駆除」は、野生動物を捕獲するという点では同じですが、その目的は大きく異なります。狩猟は、野生動物の管理、個体調整や趣味のため野生動物を捕獲することを指し、対象鳥獣や期間は法令により制限されています。日本に生息する約700種の鳥獣のうち、狩猟の対象となる鳥獣は46種です。一方、「有害鳥獣捕獲」は、人的・物的被害防止・抑制のために野生鳥獣を捕獲することを指します。特に有害鳥獣捕獲には県や町などの許可を得る必要があります。

鳥獣による被害が発生した際は、まず現場調査を実施します。そのうえで被害防止のために捕獲が必要と認められる場合や、住宅付近に獣が出没した場合などを指します。特に有害鳥獣捕獲には里山や町民の生命や財産を守るために緊急に捕獲が必要とされた場合に有害鳥獣捕獲を実施します。

クマの捕獲件数は9年前の18倍 増え続ける町内の被害状況

近年、野生動物の目撃情報が増え、野生動物による被害は身近な脅威へと変化しています。被害としては、田畠や果樹の食害に加え、生活面ではブン害、交通事故では衝突事故が発生しており、町民の命に関わりかねない事案も報告されています。過去との比較でも深刻さは明白で、クマの目撃件数は平成28年の8件から令和7年の63件へ約7.9倍に、捕獲頭数も2頭から36頭の18倍に増加しました。また、クマの出没する時間帯や場所は限定され

安全は偶然では生まれない 人知れず町を守る金山獣友会

金山獣友会には現在18名が加入し、限られた人数の中で金山町の安全を守るために精力的に活動を行っています。日常的な見回りやクマ出没時の初動対応に加え、有害鳥獣の捕獲や追い払い、罠の設置など取り組んでいます。なかでも罠の設置や確認は負担の大きい業務です。町民の出勤や通学前に安全を確保できるよう、夜明け前から活動を開始し、毎日町内を巡回しながら多い日は数十基以上の罠を設置します。1基の設置にはおよそ30分を要し、町内全域での設置や点検を終えるまでに半日近くかかる日もあります。また、クマの目撃情報が入った場合は、天候や時間帯に問わらず、警察や消防、役場などと連携して最前線でパトロールを実施します。

会員は住民と自己の安全を最優先に現場に入りますが、発砲は厳格に制限され、許可や安全条件が整わない限り住宅近接地などでは銃を使用できません。結果として、至近距離での接触リスクや河川沿いでの夜間対応など、危険と隣り合わせで活動を行っています。全国的にも獣友会員の事故や負傷は課題となっていました。金山町でも「命の危険を感じた瞬間があった」と語る会員は少なくありません。こうした危険と隣り合わせの過酷な現場で、人知れず町の安全なくらしを守っているのが金山獣友会なのです。

獣友会は、狩猟者を会員とする団体で、狩猟の安全啓発や、新人育成、団体保険への加入手続きなどを行いつつ、市町村などが行う鳥獣被害対策にも協力しています。金山町でも「有害鳥獣対策実施隊」として追い払い・捕獲・見回り等を行っています。

獣友会免許を受けるには、獣法の種類に応じた区分銃猟、わな猟などに応じて、都道府県知事が実施する狩猟免許試験(知識・適正・技能)に合格する必要があります。このほか銃猟を行うためには、獣猟免許を得る必要があります。更新時は定期講習と技能・安全の再確認が義務づけられ、違反や不適性があれば許可は取り消されます。

町民一人ひとりの手の中にあります。安心して暮らせる里山を残すために今、私たちに何ができるのでしょうか。

自然のスケールと向き合う日々 その学びを力に、里山の安全を守りたい

生活の一部だった獣は時代とともに変化し、過去の当たり前は特別に変わりました。さらに年1.2回クマが捕れると町はお祭り騒ぎでしたが、数十年が経過し、現在では当たり前に変化しました。特にこの5年間で、鳥獣による農作物の被害や目撃情報が急激に増え、私たち獣友会の出動や見回りの回数も大幅に増えています。罠の設置ひとつとっても、安全確保や運搬、設置、確認の手順上、最低でも4人は必要になります。これまで町民の皆さんや会員の安全に細心の注意を払い、責任をもった対応を心がけてきましたが、現場の安全性と作業の確実性を担保するためにも、会員の確保は大きな課題となっています。

一方で、昨年は若い会員が新たに3名加わりました。体力があり、アウトドア経験も豊富な人材で、活動にも積極的に参加してくれるためとても心強く、ありがたく思っています。少しずつ経験を積んで、将来的には獣友会を牽引していけるような存在になる事を期待しています。また、今後もそういった人材が増えてほしいと強く願っています。

人手不足により、活動の限界はありますが日々、学びと試行錯誤を重ねながら、町の安全を守れるよう、今後も仲間とともに全力で取り組んでいきます。

加入1年目
獣友会会員 渡辺 利彦さん

自然の中でしか得られない豊かさがある だからこそ深く知りたいと思った

山やアウトドアが好きで金山の自然をより深く知りたいと思い、獣友会に加入しました。職場の理解もあり、活動に参加しやすい環境がある事にとても感謝しています。実際に活動してみると、野生動物の出没が増えたことにより早朝や夕方を問わず出動要請があり苦労されていることや、罠の設置や見回りのための人手が不足しているという現状を知りました。また、野生動物による被害に苦しんでいる方も多く、「罠を置いてくれるだけでも安心する」「見回りをしてくれて助かる」という言葉をいただくたび、少しでも力になりたい、安心して暮らせるまちづくりに貢献したいという思いが強まります。

まだまだ技術は未熟ですが、先輩方や仲間と協力しながら今後も安全第一で取り組んでいきたいと思います。自然を相手にする分、決して簡単ではありませんが、アウトドアに興味がある方、自然が好きな方、体力に自信のある方はぜひ獣友会にご連絡ください。



金山獣友会の想い

受け継がれてきた知恵は、次世代へ
里山に息づく「獣」を見つめる。

加入43年目
獣友会会長 須藤 孝一さん



深刻な被害状況



①イノシシによって掘り起こされた田んぼ。イノシシは田んぼの中のミミズや昆虫、カエルなどの食べ物を探す ②イノシシの足跡。足元を注意深く観察すると町内のいたるところに獣の足跡が見られる ③クマによって折られた栗の木。高い位置の木の実に届かない場合、枝を引き寄せたり折ったりして食べる ④囲い罠。イノシシを一度に複数頭捕獲するための大型の罠の一種

町民の皆さんからの声



イノシシに田んぼや畑を掘り起こされ、大きな被害が出た。夜間、田んぼの見回りに行くが、クマの出没も増えているためとても怖い。自主的な対策では限界があり、獣友会の方々にアドバイスをもらいながら対策を行っている。



地区の人が獣に畑や柿の木を荒らされた。町内どこにでもクマが出没するので朝夕の活動に支障をきたしている。獣友会の方々が日頃から見回りをしてくれているので、大変ありがとうございます。

※令和7年11月20日 時点(町内)



金山獣友会は、現在いくつかの大きな課題に直面しています。最大の課題は新規会員の不足と会員の高齢化です。正規会員は令和7年11月20日時点で18名いるものの、見回りやクマ出没時の対応、罠の設置といった現場作業の担い手は実質3名程度。罠の設置には最低4名は必要ですが、実動人員の不足は深刻で持続的です。会員からは「人手不足のため活動には限界がある。町民の皆さんの要望を叶えきれない心苦しい時もある」と悲痛な声が聞かれました。山形県全体の獣友会会員数は、会員数が最大となつた昭和53年の7,141名から、令和6年3月末時点では1,735名となり、約75.7%の減少となっています。また、令和6年3月末時点の会員1,735名のうち、1,074名が60歳以上の会員となつており、高齢化が進んでいます。また、活動コストの一部が会員個人の自費で賄われている現状も課題の一つです。町の安全を最前線で守っているにもかかわらず、銃や弾薬、装備、獣用金庫、弾薬用金庫、射撃訓練費用など、獣に関する費用は自己負担もともない、継続参加の障壁になっています。一方、近年では山形県による「新規狩猟免許取得者制度」や町による「有害鳥獣捕獲負担金」や「報酬」などの支援が行われ、獣友会の活動を後押しする追い風も生まれています。

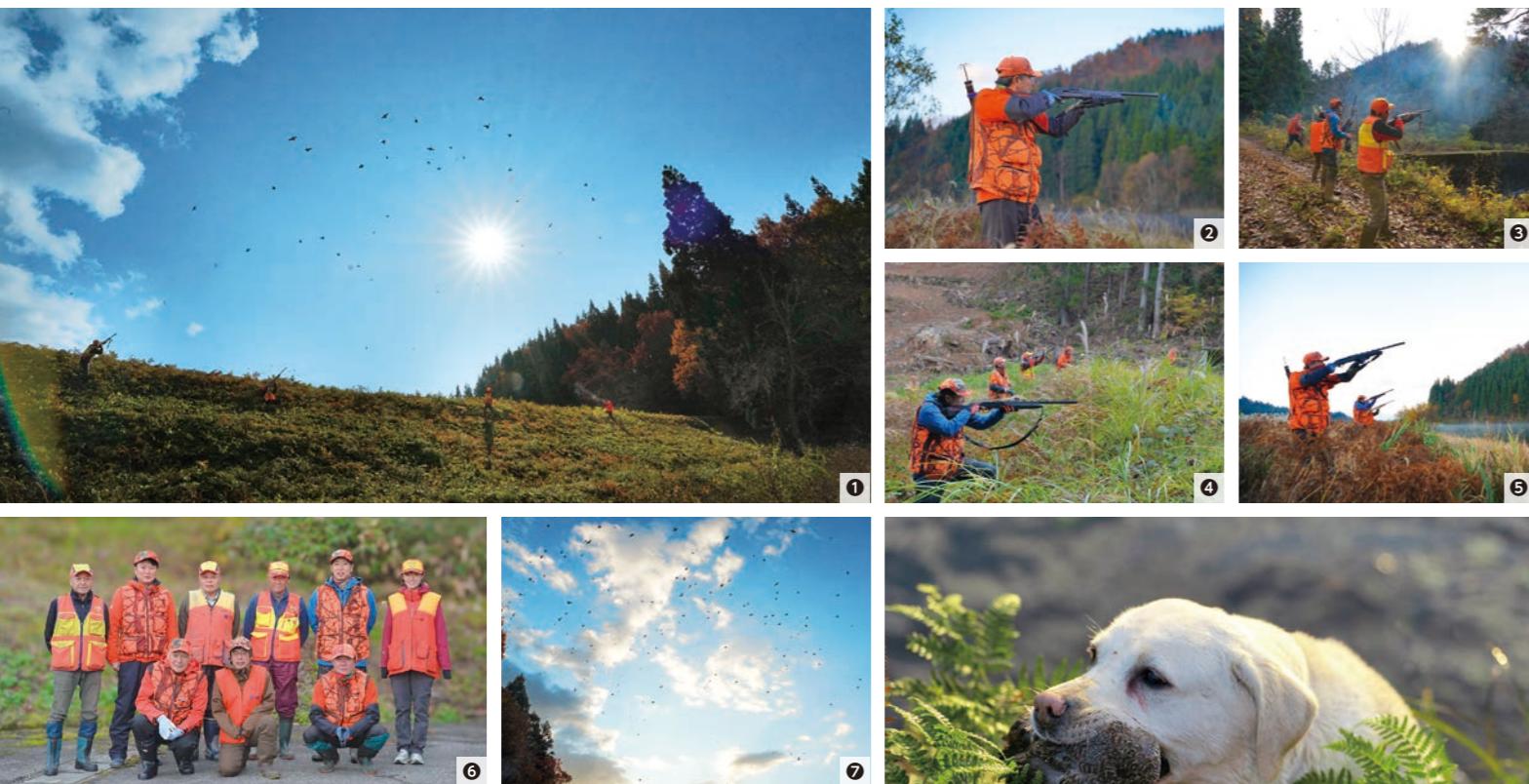
獣友会が直面する大きな課題

あなたもハンターになりませんか？

金山町では、「有害鳥獣捕獲負担金」の他、有害鳥獣対策実施隊の活動に対し、「報酬」をお支払いしています。町の安全と被害軽減のため、金山猟友会への加入者を募集しています。



①トラップ射撃。射手から見て前方のほうからクレーは前方へ遠く飛び ②スキート射撃。左右2つの射出機からクレーが横方向に飛び ③銃を発射すると中の弾丸が発射。殻(空薬きょう)だけが銃の外に排出される ④クレーと呼ばれる直径約12cmほどの素焼きの皿を狙い、射撃練習を行う。蛍光オレンジが一般的な色とされている
⑤クレー射撃大会で装填出来る弾は最大2発まで ⑥ベテラン会員による若手会員への射撃技術指導 ⑦ベテラン会員による雨の日のクレー射撃



①狩獵解禁日には狩獵可能区域で獣が行われ、狩獵対象となるカモ20羽が捕獲された
②③④⑤カルガモ、マガモ、子ガモを狙うハンター
⑥狩獵解禁日には新庄猟友会と金山猟友会の交流が図られた
⑦銃声に驚き一斉に飛び立つカモ ⑧沼に落ちたカモを泳いで回収する猟犬



私たちにできること

獣友会の日頃の活動により、町の安全は守られています。しかし、被害を減らすためには、私たち一人ひとりの日常的な備えと正しい知識も欠かせません。

里山に暮らす私たちは
自然という大きな存在の一部である

だからこそ問い合わせ、歩み続ける

欠くことのできない生き物たちと
共に生きる道を今日も探して

守人 完

共生のために問い合わせ、考え続ける
野生動物による被害は誰かにとっては日々の死活問題であり、日常を脅かす厄介事です。そのため共生より「被害ゼロ」を望むのはとても自然なことです。
一方で、どんな努力があつても、野生動物を人間の思い通りにコントロールしたり、生活圏を完全に分けたりすることはありません。だからこそ、私たちが取り得る道、「共生」を選び、野生動物と人がともに暮らせる里山を未来へ受け継ぐ必要があります。

金山町は野生動物との生活圏が近く、クマをはじめとする野生動物との遭遇りスクが身近にあります。被害を未然に防ぐには獣友会の活動の継続はもちろんですが、皆さん、鳥獣や獣友会の活動に関する正しい知識を身につけ行動に移す事が大切です。万が一クマなどの野生動物に出くわした場合でも適切な行動を取ることで、被害を最小限に抑えることができます。町民の皆さん、日々の備えと日々の小さな積み重ねが、金山町の安全を守るのです。

被害を出さないために
私たちにできる備えを

クマに出会わないために

Point 1 クマの生態を知る

- 早朝や夕暮れはクマの活動が活発
- 蔽沿い・川沿いはクマが潜む可能性が高い
- 春から初夏の子連れ期と秋の実り期はクマの活動が活発
- クマの足跡や粪、掘り返し、爪痕などの痕跡を見つけたら周囲に注意



Point 2 自分の存在を知らせる

鈴やラジオ、音楽などで常に人の気配を発しましょう。川の近くや強風時は音が届きにくいため、意識して音量と頻度を上げるのが効果的です。爆竹や花火は一時的な効果に限られます。



冬期間も注意

冬は餌が少くなり、特にイノシシは冬眠しないため住宅地に近づく可能性があります。さらに、屋根や床下の隙間からハクビシンやタヌキなどが侵入し、住み着くおそれがあるため、家まわりの隙間は金網などで塞ぎ、侵入を防ぎましょう。



Point 3 クマが来ない環境づくり

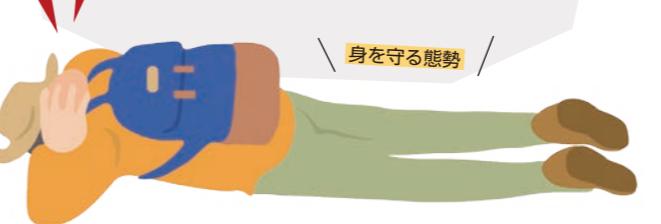
- 生ごみやペットフードなどにおいの強い物は外に出さない
- 草刈りや除雪で見通しを確保
- 物置や納屋は必ず施錠
- 落ちた木の実や果実はこまめに回収。不要であれば伐採



Point 5 攻撃された場合

- 風向きを確認し、クマよけスプレーをクマの顔面に連続噴射。※スプレーの飛距離は約2~3m
- 接触・転倒時はうつ伏せまたは横向きで、首を手で強く保護。リュックは背中を守るために背負ったまま、動きを最小限に抑える。

クマによる負傷…☎119番通報



Point 4 距離が近い場合

- クマを見たらその場で静止し、静かに後退
- クマの目を凝視しない、クマに背を向ける、姿勢を低くしない、威嚇しない
- 木や岩、柵などを自分とクマの間に挟み、退路を確保
- 犬連れの場合はリードを短く持ち、吠えさせない
- チワワでも近づかず、親の存在を想定する

緊急性が高いと判断した場合はすぐに通報を

クマの目撃…役場産業課 農林整備係 ☎29-5645(平日・日中)
警察 ☎110番通報(休日・夜間)

金山の企業と職人が先生に プロジェクトKで職業観を育む

11 月7日、金山中学校で職業体験学習「プロジェクトK」が開催され、金山小学校6年生、金山中学校1年生、新庄南金山校1年生、合わせて約77名が参加しました。今年で7年目を迎えるこの取組みは、金山町を盛り上げる企業や、高い技術を持った職人の方々との交流を通して地域の良さを再発見するもので、15社がブースを開設し、児童・生徒に企業の紹介や働くことの楽しさを体感してもらいました。



金山ビーナッツの新商品 販売開始 「コンソメ焼きそば味」

金 山小学校5年生と㈱でん六が共同開発した、町産落花生ビーナッツを使用した新商品が完成しました。11月6日から販売を開始し、同日、金山小学校で商品発表会と販売会を開催しました。商品開発は令和4年から毎年実施し、味付けやパッケージは児童が考案。今年は多数挙げられた案の中から「コンソメ焼きそば味」に決定しました。児童が描いた金山町の「すくろくりーフレット」が同封されており遊び心も満載。町内ではシェーネスハイム金山、マルコの蔵で販売中です。



第68回金山町公民館大会並びに 第46回金山町生涯学習推進大会

11 月3日、金山町中央公民館で第68回金山町公民館大会並びに第46回金山町生涯学習推進大会が開催され、約120名が出席しました。式典では令和7年度町表彰や感謝状贈呈、卓越技能者該当者の顕彰、景観図画コンクールの表彰を行ったほか、記念講演と地域シンポジウムを開催し、参加者全員で地域の課題を共有しました。また、芸術月間の展示や「ふあむふあむマルシェ」を開催し、会場は多くの人が賑わいました。



小雨の紅葉を駆け抜ける カムロトレラン2025

10 月26日、グリーンバレー神室を会場にカムロトレイルランニング2025とこみどりCUPを開催し、全国から430名を超える参加者が集まりました。クマの出没も考慮して最長31kmの「KAGURAコース」は神室山を通過しないコースに変更して実施。当日は小雨でしたが、紅葉が始まった山々を舞台にレースが繰り広げられました。

今年度は町制施行100周年記念大会のため、トレイルランナーのくれいじーかるさんと伊東ありかさんをゲストに迎え、ゲストMCの山田夕美子さんが会場を盛り上げました。大会プロデューサーの須賀暁さん（山崎出身）は「これからもカムロトレールランを通じて金山町と神室山の素晴らしさを全国に伝えていきたい」と来年への決意を語りました。



まちの わだい



身近なわだい、お寄せください。
総務課 広報・DX推進係 ☎29-5601

「金山学」本発表会 3年間の研究の成果を披露

11 月12日、金山中学校で「金山学」本発表会が開催され、約3年間研究に取り組んできた3年生40名が成果を披露しました。中間発表でアドバイザーから受けた助言を元に今回の発表が行われ、発表を参観した鈴木英樹教育長は「事業所への提案や商品化など生徒の実行力に感服した。3年生の自分の目的に向かって探究する力や企画する力が大変素晴らしかった」と感想を述べられました。



にぎわう明安の秋 道草 秋の芸術感謝祭 in 金山

11 月9日、旧明安小学校で道草秋の芸術感謝祭in金山が開催され約400名が来場しました。感謝祭ではデカタマコンやたこ焼き、焼きそばなど7店の飲食ブースが出店したほか、金山中学校吹奏楽部によるステージ発表や手作り体験ブース、bingo大会などが開催され、会場は多くの親子連れや明安地域住民で賑わいました。また、同日開催の新そば祭りでは「もりそば」と「揚げそば」が販売され、食べ比べを楽しむ姿が見られました。



神室山の魅力をPR 神室サミット

11 月8日、ホテルシェーネスハイム金山で神室山の会(押切民夫会長)主催の神室サミットが開催され、登山愛好会会員ら38名が参加しました。サミットでは有屋地域から湯沢市秋ノ宮薄久内につながる古道「有屋峠」にまつわる講演が行われ、翌日には古道の一部である鉤掛森までのトレッキングツアーが開催され、秋の寒空の7名が参加しました。



芸術の秋を楽しむ 芸術文化協会舞台発表会

11 月8日、中央公民館で芸術文化協会舞台発表会が行われ、開会式では柳原番楽保存会が舞台清めの舞と参加者の厄払いを行いました。発表会では藤乃会、流扇会、舞の会、千川楽栄会、らくえい踊りの会、令和の会、美杉コーラス、大正琴愛好会、響華、金山歌ノ会、永山茂樹さんなどが参加し、多彩な22演目が披露されました。出席者約120名は日本舞踊や合唱、和太鼓、大正琴など金山の芸術文化を楽しみました。



かねやま ステップジャンボ!!



健康維持のためには1日8,000歩を歩くことが推奨されており、金山町では5月2日から「かねやまステップジャンボ事業」をスタートしました。「かねやまステップジャンボ事業」は宝くじのような仕組みで景品がもらえるウォーキング推進事業であり、町内事業所と連携して実施しています。

【問い合わせ】役場健康福祉課 健康係 ☎29-5624



ステップジャンボ参加事業所紹介

健康づくりに向けた取り組み

- ①定期健康診断
- ②冬期の健康相談
- ③安全大会で救急救命講習会
- ④スマートウォッチでの熱中症対策



建設業である我々の仕事は特に体が資本、何よりも健康維持が重要です。従業員の健康意識を高めるため、わが社では独自にスマートウォッチを支給するなど取り組みを行っていますが、今回この事業に参加し、より一層意識が高まっています。

従業員同士で「今日は何歩歩いているか」、「景品がもらえたか」など楽しみながら取り組めているようです。従業員の健康は会社や本人とその家族にとって大事なものです。この雰囲気が継続できるよう声掛けていきたいと思います。

代表取締役社長 柴田 純一さん



①有限会社星輪外観 ②安全大会での救命救急講習会
③永年実施している草刈とゴミ拾いのボランティア活動

14 有限会社星輪 参加事業所からのメッセージ



Seiwa



▲左から小松さん、堀さん、渡部さん

下3桁一致でジャンボ賞当選 金山コネクタがジャンボ賞2枚を獲得

8月と9月分ジャンボ賞で、金山コネクタ株式会社の小松真理子さん(板橋)がJTB旅行券3万円分、堀隆行さん(片貝)がランニングウォッチを当選・獲得しました。小松さんは「毎週金曜日は抽選結果が出るので、職場内で話題になる。今後も楽しみながら続けて行きたい」と、堀さんは「普段から歩くことを意識的に行っている。5月から事業に参加して、身体の不調が軽減されたように感じる」と喜びを語りました。また、渡部昭仁主管は「この事業がなくなつても健康づくりのため、歩く事を意識的に継続していきたい」と今後の健康促進への想いを語りました。

戦後80年の祈り 御靈に捧ぐ平和の願い

11

月18日、町農村環境改善センターを会場に「金山町戦没者追悼式」が行われました。昨年度まで町遺族会主催で「慰靈祭」を挙行していましたが、戦後80年の節目を迎える今年度は、金山町と町遺族会の共催で「戦没者追悼式」として挙行されました。一般参列者とご遺族、合わせて40名が献花を捧げ、戦没者の御靈の安寧とご遺族の皆様のご多幸、そして世界の恒久平和を祈念しました。



季節を束ねる ドライフラワー教室

11

月8日、ガーデナーの青木真理子先生を講師に、フラワーコネクション事業の植栽の切り戻しを使いドライフラワー教室が開催されました。「長さ、色、形を意識して配置」、「1番濃い色のものが色あせた時が捨てどき」などアドバイスを聞きながら、11人の参加者は真剣そのもの。大きな花束を両手いっぱいに抱えて帰る参加者の笑顔があふれるイベントになりました。



金山100年の想いをのせ 金中生が「りゅう」を全校合唱



▲全校生徒で合唱した100周年記念楽曲「りゅう」

10月25日、金山中学校で合唱祭が開催され、あわせて町制施行100周年記念スピノフ映像の撮影が行われました。今年度は「りゅう～100年先の金山へ～」を合唱祭のスローガンに掲げ、学年ごとの合唱発表のほか、100周年記念楽曲「りゅう」の全校合唱が行われました。合唱曲「りゅう」に金山町がこれまで歩んだ歴史と、これから金山町の未来への想いをのせ、会場いっぱいに歌声を響かせました。

平成4年度金山中学校卒業生 金山町へ5万円を寄付



▲矢口淳さん(左)、佐藤英司町長(右)

10月17日、平成4年度金山中学校卒業の同期会の皆様より、町へ5万円の寄付をいただきました。同級会を代表し矢口淳(鮭川村)さんが来庁し佐藤英司町長に寄付金を手渡しました。寄付金はまちづくり全般に大切に活用させていただきます。平成4年度金山中学校卒業生の皆さん、誠にありがとうございました。

モンティオ山形市町村応援デー 城和隼颯選手が来町



▲安部崇士選手(左)と相田健太郎代表取締役社長(右)

10月15日、町アンバサダーの城和隼颯選手が地域貢献活動の一環で来町し、岸家具店で金山杉のキーホルダー製作を体験したほか、NHK「やままる」の取材に応じ、金山町のPRを行っていただきました。さらに、10月19日の「金山町市町村応援デー」にあたるロアッソ熊本戦では、試合開始前に佐藤英司町長がマグネット募金と、金山産のビーナッツ菓子などを贈呈し、選手を激励しました。今後の更なる活躍を期待しています。

金山中 佐藤嘉乃さんの提案が商品化 ビーナッツタルト深田菓子舗で発売中



▲佐藤嘉乃さん(右)と深田裕介さん(左)

金山中学校の総合的な学習の時間「金山学」において、3年生の佐藤嘉乃さん(板橋)が開発した「ビーナッツタルト」が商品化され、10月から深田菓子舗(新庄市)で販売されています。タルトは金山産の落花生をふんだんに使用したビーナツクリームに、ピスタチオのムースとローストアーモンドを組み合わせた一品です。佐藤さんは、「試作を重ねてきたので、商品化出来てとても嬉しい。多くの協力とサポートに感謝したい」と想いを述べました。

みんなで祝う健康・長寿 羽場地区 長寿を祝う会



▲披露された舞踊を楽しむ皆さん

10月26日、羽場地区で第21回長寿を祝う会が開催され、22名が参加しました。アトラクションでは栗田満さんによる舞踊が披露され、真室川音頭とドンパン節を全員で合唱しました。また、ボランティアグループのスタッフによる「旬のモノ食べ方紹介コーナー」など盛りだくさんな内容となりました。昼食には弁当や芋の子汁、果物、地区で育てた野菜の漬物が女性の会から振る舞われ、会場からは「んめなあ」と喜びの声が上がりました。

6年ぶりの復活 とこみどり少年野球大会



▲金山スポーツ少年団野球部の部員たち

10月18日、金山スポーツ少年団野球部が主催する「とこみどり少年野球大会」が開催され、4チームが白熱した試合を繰り広げました。本大会は、部員数の減少や感染症の影響により令和元年の開催を最後に中断していましたが、多くの支援により、6年ぶりの開催が決まりました。栗田一直大会名誉顧問は、「過去の出場選手中にはプロになった人もいる。この大会を経験した子ども達が様々な分野で活躍してほしい」と語りました。

平成11年度金山中学校卒業生 金山町へ5万円を寄付



▲佐藤美華さん(左)、佐藤英司町長(右)

10月17日、平成11年度金山中学校卒業の同期会の皆様より、町へ5万円の寄付をいただきました。同級会を代表し佐藤美華さん(板橋)が来庁し佐藤英司町長に寄付金を手渡しました。寄付金はまちづくり全般に大切に活用させていただきます。平成11年度金山中学校卒業生の皆さん、誠にありがとうございました。

新庄・最上ジモト大学開催 17名の高校生が地域を知り学ぶ



▲ジモト大学に参加した高校生の皆さん

10月12日、グリーンバレー神室で「新庄・最上ジモト大学」金山プログラムが開催され、新庄南高校金山校の生徒をはじめ、町内外の高校生17名が参加しました。参加した高校生は金山中学校の生徒と協力し、産業まつりの会場を回って募金活動等に取り組みました。意見交換会では、「多くの方に声をかけていただき、町民の温かさを感じた」「産業まつりは素晴らしいイベントなので、PRを工夫すれば、より多くの人が集まりそうだ」など、様々な意見が出されました。

困っている人の力になりたい 中学生と高校生が社協へ寄付



▲左から柴田茉乃さん、近岡愛心さん、仲野想良さん、
金山町社会福祉協議会 武内俊雄事務局長

11月11日、新庄南金山校2年仲野想良さん(新庄市)と金山中学校3年柴田茉乃さん(稻沢)、2年近岡愛心さん(朴山)が社会福祉協議会に30,180円を寄付しました。この寄付金は、10月12日に開催された産業まつりで、高校生6名と中学生12名が募金活動によって集めたものです。「被災地の復興や、困っている方の力になりたい」という生徒の思いから、寄付金は被災地への支援金として活用されます。

歌声で元気を届けたい 金山診療所ホスピタルライブ



▲ライブではCDやTシャツなどの物販も行われた

11月5日、町立金山診療所で「ホスピタルライブ」が開催されました。全国の病院や福祉施設などで年間300回以上の公演をおこなっているシンガーソングライターの松尾貴臣さんをお招きし8曲が披露されました。金山診療所では6年ぶりの開催となりましたが30名を超える町民の皆さんのが集まり、心温まる爽やかな歌声に会場には手拍子や掛け声が響きわたりました。

押切民夫さん制作 能面15点・狂言面5点を展示



▲展示された能面の前で講話を行う押切民夫さん

11月3日から5日まで中央公民館を会場に、能面作品展示を開催し、町内外から延べ220名を超える来場者がありました。最終日の講話では、制作者の押切民夫さん(七日町)から制作過程を交えながら能面の魅力についてお話しがあり、参加者からは「こんなにたくさんの作品を作っていたことに驚いた。能面に対する熱意が伝わってきた」との声が寄せられ、大盛況のうち幕を閉じました。

若手職員が6つの事業を提案 職員プロジェクトチーム



▲事業提案を行った役場若手職員7名

10月29日、役場市民ホールで職員プロジェクトチームによる事業提案報告会が開催されました。このプロジェクトは、町の大きな課題である「人口減少カーブの緩和」をテーマに掲げ、調査・研究・事業提案を行うもので、議論を進めた結果、空き家活用、定住対策、子育て支援策など6つの事業提案がされました。また、6つの提案の他に3年間取り組んで成果を上げた「健康づくり推進プロジェクト」の報告がありました。

皆で楽しく健康づくり 健康長寿の集い



▲健康長寿の集いには42名が参加

11月11日、金山町社会福祉協議会主催の「健康長寿の集い」が町農村環境改善センターで開催され、民生児童委員16名、参加者42名が出席しました。集いでは町長との意見交換会が行われたほか、アトラクションとして芸術文化協会「流扇会」「令和の会」による舞の披露や頭の体操、参加者による「楽ハピ体操」、カラオケなどが行われ、終始和やかな雰囲気のもと楽しい時間を過ごしました。

戸沢政盛公を描いた絵本62冊 新庄信用金庫が町へ寄贈



▲鈴木英樹教育長(左)、大澤英一郎常務理事(右)

11月10日、新庄信用金庫の大澤英一郎常務理事と有路秀悦部長が来庁し、戸沢政盛公を描いた絵本「新庄のお殿様 戸沢政盛公」62冊を町に寄贈いただきました。この絵本は新庄藩の礎を築いた初代藩主戸沢政盛公の生涯を描いた作品で、「歴史を知り、郷土への思いを強めてほしい」との考え方から町へ寄贈されたもので、絵本は金山小学校の1・2年生に配布されます。

町にカーブミラー4基を寄贈 JA金山並びにJA共済連山形



▲岸新也理事長(左)、佐藤英司町長(右)

11月4日、金山農業協同組合の岸新也理事長と、全国共済連山形本部事業推進部の佐藤真司最上地区担当部長が来庁され、町にカーブミラー4基をご寄贈いただきました。この寄贈は交通事故対策事業の一環として、平成7年から毎年継続して実施いただいているもので、町内各所に設置し、交通安全の確保と事故防止に大きく寄与しています。長年にわたるご厚意に、心より感謝いたします。

岸旺輔さん山田海司さん 俳句・短歌で若き才能を発揮



▲岸旺輔さん(左)、山田海司さん(右)

11月2日、尾花沢市のサルナートで第36回山形県少年少女俳句大会の表彰式が開催され、金山中学校3年山田海司さん(七日町)の作品「投げられて道着の形に汗の跡」が奥山まや先生特選に選ばれました。また、第9回U-39やましん紙上歌会では、金山中学校2年岸旺輔さん(田茂沢)の作品「溪流に足を踏み入れフィッシング イワナ釣れればうまい塩焼き」が中学生の部最優秀に選出されました。誠におめでとうございます。

12/18から第2庁舎へ農業委員会・産業課が移転します



▲役場第二庁舎として生まれ変わった旧莊内銀行。
オープningセレモニーは年明け1月5日を予定。

産業課(商工観光係を除く)と農業委員会が、12月18日から役場第2庁舎(旧庄内銀行金山支店)へ移転し、これまでに比べて、町民の皆さまが立ち寄りやすく相談しやすい窓口環境となります。引き続き、迅速かつ丁寧な対応に努めてまいりますので、お気軽にご利用ください。

その他

- ・産業課、農業委員会の電話番号は変更ありません
- ・庄内銀行のATMは引き続きご利用いただけます
- ・住所…金山町大字金山407番地

12月行事予定表

1(月)	人間ドック・総合健診
2(火)	1歳児・2歳児歯科健診
3(水)	すこやか相談
5(金)	心配ごと相談
6(土)	プレベビーマッサージ
9(火)	乳児健診
10(水)	読み聞かせ・お話会
12(金)	人間ドック・総合健診
15(月)	心配ごと相談
17(水)	すこやか相談
22(月)	心の健康相談
25(木)	心配ごと相談 農業委員会総会 ベビーマッサージ・ママケア教室

12/11-12/20
飲酒運転撲滅・冬の交通安全県民運動
年末地域安全運動

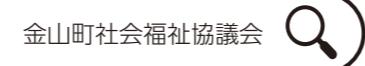
金山町社会福祉協議会 ホームページを開設

金山町社会福祉協議会では、公式ホームページを開設しました。協議会の事業内容、社協だより、各種ボランティア募集情報、金山版「100歳体操」動画などを分かりやすく掲載しています。あわせて、公式Instagramと公式Facebookも新設し、今後は活動の様子やイベント情報などをタイムリーに発信してまいります。ぜひフォローをお願いいたします。

また、災害時等の避難所情報、災害ボランティア募集情報などもいち早く共有いたしますので、ぜひご活用ください。



◆公式ホームページはこちら



【問合せ】 金山町社会福祉協議会 ☎52-2099

金山町会計年度任用職員を募集します

令和8年度会計年度任用職員について、以下のとおり募集を行います。

- 【受付期間】 令和7年12月8日(月)～12月24日(水)まで
 【受付時間】 土日を除く8時30分～17時15分まで
 【応募資格】 ・年齢、性別は不問 ・心身ともに健康な方 ・下記「募集職種」の必要な要件を満たす方
 【申請方法】 下記①または②の方法でお申し込みください
 ①必要書類を役場総務課へ直接または郵送で提出
 ・金山町会計年度任用職員採用申込書1部(HPに掲載)
 ・資格や免許が必要な職種は資格証明書や免許証のコピー1部
 ②申し込みフォーム「パブリックコネクト」から応募
 【採用方法】 書類選考および面接により採用を決定します。面接の日時は応募者に連絡します。
 【任用期間】 1会計年度(4月1日～翌年3月31日)を基本とします。また、業務の必要性や任用期間中の勤務状況により、次年度以降も再度の任用を行う場合があります。

募集職種

パートタイム会計年度任用職員

【勤務時間等】 土日祝日を除く週5日勤務 ※勤務時間は勤務場所によって異なります

職種／勤務時間	業務内容	勤務場所	月額報酬 R8.4.1～予定	必要要件
教育支援員 8時～16時15分	・小中学校における教育活動支援	金山小学校 または 金山中学校	174,100円～ 207,100円	短大卒、4年制大学卒又は他の自治体で教育支援員として1年以上勤務経験がある方
調理員 8時～16時30分	・調理業務 ・物資搬入業務 ・衛生管理業務	学校給食 共同調理場	167,000円～ 170,500円～	普通運転免許取得
運転手兼調理員 8時～16時30分 ※冬期間早出有	・公用車による給食運搬業務 ・施設管理業務(除雪作業を含む) ・給食調理業務	学校給食 共同調理場	199,600円～ 220,600円	普通運転免許取得 ※H29.3.12以降に普通免許を取得した方は、準中型免許を受けていること
スポーツ推進員 8時～17時 ※休日・夜間業務有	・健康づくり推進事業の実施 ・ふれあいスポーツクラブ運営 (会員管理・施設予約等) ・運動施設の管理 など	金山町 教育委員会	167,000円～ 199,600円～	・普通運転免許取得 ・パソコン操作(Word, Excel)のできる方 ・スポーツにかかる仕事に興味がある方 ・休日及び夜間の業務へ対応できる方
環境整備員 8時30分～17時 ※4/1～11/30勤務	・公共施設等の環境整備業務 (草刈り、雪囲い、ごみ拾い、公園管理等)	公共施設等	185,000円～ 207,100円	普通運転免許取得

※詳細は募集要項をご確認ください



◆募集要項・申込書
申し込みフォームはこちら

【問合せ】 役場総務課 総務係 ☎29-5600

今年度は台風などによる災害が発生せず、令和6年度と比べ、穏やかに過ごすことができたのではないかでしょうか。これから冬になり、台風などによる大雨の心配はなくなりましたが、油断は禁物です。今回は、これから発生しうる災害について紹介していきます。

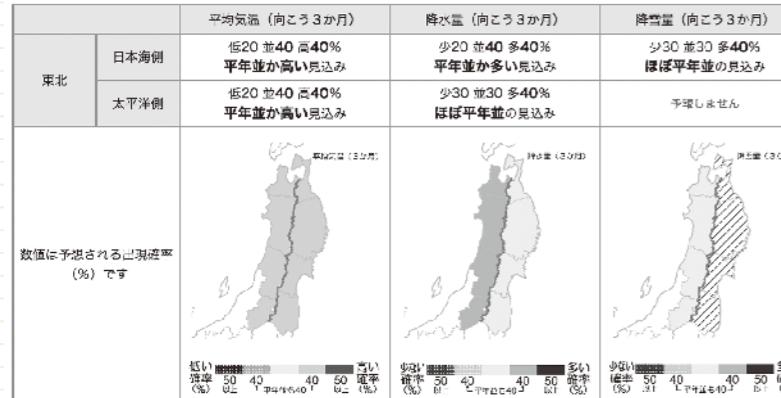
地震について

冬季の地震といえば、能登半島地震が記憶に新しいですが、金山町でも、将来

発生する可能性がある地震源があります。それは、新庄盆地断層帯地震です。本断層帯は、新庄市から舟形町まで続く東部断層帶と鮭川村から大蔵村まで続く西部断層帶の2つの断層があります。この断層帯による地震の推定震度は、金山町で最大震度6弱程度と予想されています。本断層帯東部は今後30年の間に地震が発生する可能性があり、日本の主な活断層の中では高いグループに属しています。

冬こそ要注意
地震と雪害に備える

向こう3か月の平均気温・降水量・降雪量



雪害について

山形県内で最も死傷者を出している災害は雪害です。毎年のように雪トロシ作業中に転落したり、除雪機による負傷や死亡が発生しています。昨冬の金山町の最大積雪深は、145cmでしたが、今年の冬の降雪予報はどうでしょうか。仙台管区気象台では、10月26日に向こう3ヶ月の天候の見通しを発表しました。それによると、今年の日本海側の降雪量はほぼ平年並みという予報が出ています。金山町の平均降雪深は137cmなので、ほぼ昨年と同量の降雪が見込まれています。

1年前から金曜日の午前中に診療所でお世話になっている金内です。今回は人生について少し考えてみましょう。誰もが病気や事故で突然意識を失ったり、認知症が進んだりして自分の思いを伝えられなくなることがあります。誰もが病気や事故で突然意識を失うかもしれません。もしもの時、あなたの代わりに誰がどんな決断をするでしょうか。延命治療を続けた結果、チューブや医療機器に囲まれ望まない状態で過ごしたり、最期まで家で過ごしたいのに一生病院で暮らすことになつたりするかもしれません。判断を周囲に委ねることは、本人だけでなく家族にも大きな負担になります。「本人はどうしたかったのだろう」と悩み、苦しい選択を迫られることもあります。後になつて

「もっと話しておけば」と後悔することもあります。こうした不安を減らし、自分らしい人生の最終章を迎えるために注目されているのがアドバンス・ケア・プランニング（ACP人生会議）です。特定の治療法を決めるものではなく、何を大切にし、どんな価値観をもって生きてきたか、そして将来どんな医療やケアを望むのかを家族や大切な人、かかりつけ医などに元気なうちに話し合いましょう。人生会議は本人、家族、医療チームに安心をもたらします。（①自分の希望を尊重した支援を提供できる。②本人の意思がわかることで迷いなく決断でき後悔を減らせる。③本人の希望を尊重した支援を提供できる。④人生会議と聞くと大きさに感じるかもしれません、つまりは小さな日常会話から構いません。お茶を飲みながら「楽しみなことは?」「生きがいは?」「もし病気になつたらいじて過ごしたい?」と話してみましょう。一度決めたら終わりではなく、考え方や状況が変わるたびに見直すことが大切です。皆さんが「自分らしく」人生を歩み続けられるよう、私たちもサポートいたします。あなたの大切な思いを伝えることは、ご家族、そして未来のあなた自身への最高の贈り物になるはずです。

町立金山診療所だより vol.200
ほっとクリニック

「人生会議」について

山形県立新庄病院 内科 かなうち 金内 拓海 先生

行政情報ナビ 開封プレゼントキャンペーンを実施します

行政情報ナビの利用率をさらに向上し、今後の情報配信のデジタル化を推進するため、開封プレゼントキャンペーンを実施します。まだアプリをインストールしていない方やタブレットを受け取っていない方はこの機会にぜひ行政情報ナビをご利用ください。

【実施期間】 令和8年1月～2月

【対象者】 期間中に配信された確認ボタンがあるメッセージを全て確認した方。タブレット、アプリ版のどちらも参加できます。

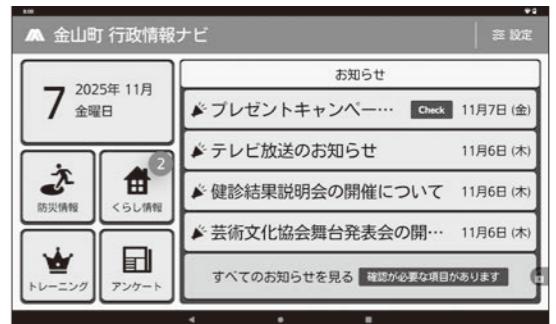
【景品】 選べる日用品500円相当 など

【当選発表】 令和8年3月に、当選者の方に行政情報ナビでメッセージを配信します。

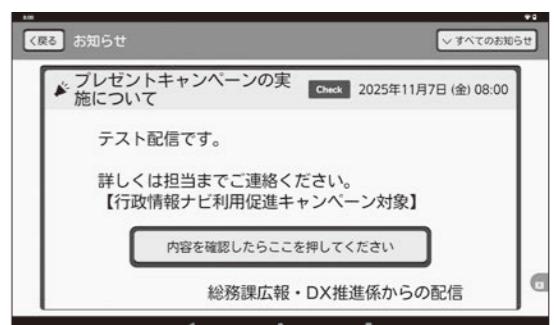
【問合せ】 役場総務課 広報・DX推進係 ☎ 29-5601

Q. これからタブレットを受取る事はできますか？

A. 可能です。平日8時～17時15分に役場総務課までお越しください。



▲対象のお知らせは、件名に赤色で「Check」と表示があります



▲お知らせを開封し、「内容を確認したらここを押してください」を押してください

町公式ホームページがリニューアル 検索をより快適に

金山町公式ホームページをリニューアルしました。これまで「階層が深く、情報が見つけにくい」とのご意見を受け、サイト階層を見直すとともに、生成AI検索機能「コグモサーチ」を導入しました。よりスマートに必要な情報へたどり着けるようになりましたので、ぜひご活用ください。

【問合せ】 役場総務課 広報・DX推進係 ☎ 29-5601



▲公式ホームページはこちら

山形県 金山町



▲「キーワード検索」から、知りたい内容を入力するだけで手軽に検索が可能

2025.12
No.756【編集・発行】山形県金山町役場
〒999-5402 山形県最上郡金山町大字金山324-1

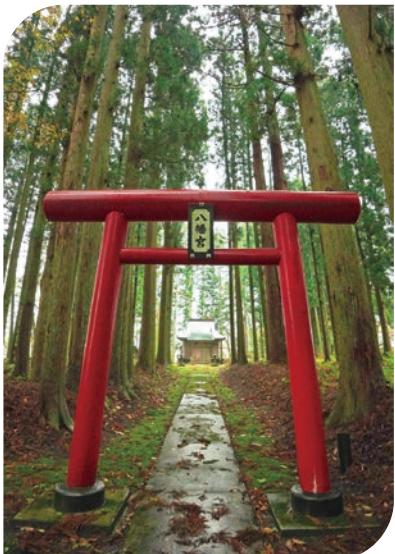
TEL:0233-52-2111 FAX:0233-52-2004 【印刷】有限公司みどり印刷



金山町町制施行101周年記念企画

かねやま未来図

町制施行100周年を迎えた新たな一步を踏み出した金山町。「金山の未来」をテーマに各地区からご寄稿いただきました。この節目の年に金山町の未来の姿を想像し、共に希望に満ちた地域社会を築いていきませんか?



▲下野明地区八幡神社

まとまりのある下野明地区

下野明地区 区長 梁瀬 進さん

年度初めの行事は、4月2日の山の神勧進です。以前は小中学生が一軒一軒の家をまわっていましたが、現在は少子化の影響により地区で協力して行っています。山の神勧進の翌日はひなまつり、繁忙期前にはかど焼、5月はフロワーロードの花植えや全町クリーン作戦、7月は金華山まつりと下野明交流会、8月には町内最古といわれる八幡様のまつりが続きます。14日の堂籠りでは、朝まで地区のことを語り合い、飲み明かしたことが懐かしく思い出されます。15日には境内で芝居や歌謡が行われ、約200名が集まり賑わいました。地区的皆さんにはこういった地区行事への参加をはじめ、花壇の水やりや歩道や墓地の草刈りなどを自主的に進めてください。これからも、このまとまりを大切にしながら、地区行事や町の行事に積極的に参加していきたいです。

【地区】 43世/133名 ※令和7年10月末時点

「限界集落」ってなに?

安沢地区 区長 佐藤 一男さん

5年前になろうかと思いますが「集落創生」の中で寄稿し、安沢地区を「歴史」と「ロマン」がある地区と紹介した覚えがあります。その歴史とロマンは変わらないわけですが、年々変わっていくのが人の減少です。世帯数や隣組数は変わらないものの超高齢化が進み、若者の減少にともない子どもたちが極端に少ない現状になっています。公民館大会の折に「地域づくりシンポジウム」で地区内の単身世帯を調べている中で65歳を超えた高齢者が地区民の50%に近づこうとしている「限界集落」が頭をよぎりました。だからと言って「地区がなくなるわけではないだろう」と思いながらも、改めて地区内の組織のあり方、神社の祭礼、さまざまな行事、共同作業などの取組を見直し、皆で考え協力しながら地区を作り上げていかなければならぬと思ったところでした。

【地区】 56世帯/165名 ※令和7年10月末時点



▲安沢地区清龍宮

後編
集録

「狛友会の特集を組みたいた」と思い行動に移したのが広報一年目の夏でした。様々な事情により特集が組めないまま2年が経ちましたが、全国的に鳥獣被害が増え狛友会への関心が高まった事により、今回の掲載が叶いました。「狩る・捕る」そして「共生」という矛盾する感じられる難しい課題に対し、私自身も多くの時間を費やしお悩みました。また取材を通じ、聞いた人の数だけ答えがあり、どれも間違いではないと感じました。

一つの答えを導きだすのではなく「問う事」「考え続ける事」そのものに意味がある——その強く思つてあります。

金山町の人口は、4,586人(10月末現在)

男性	2,268人	(−7)
女性	2,318人	(−8)
世帯数	1,677世帯	

▼10月の異動	
出生	1人
死亡	10人
転入	5人
転出	11人